

笑顔をつくる10年ビジョン

～市民の笑顔が人を呼び込むまち～

概要版



はじめに



本市は、平成 17 年の市町合併により、人口約 73,000 人で誕生し、その後 13 年が経過いたしました。その間、本市においても少子高齢化の人口減少時代の波は押し寄せ、社会保障関連経費の増加や地場産業の後継者不足の問題など、地方に共通する課題が山積しております。また、合併により多くの公共施設を抱え、老朽化に伴う更新や集約等の課題を抱える中、合併算定替による普通交付税の縮減も重なり、自立した行財政運営が急務となるなど、本市は大きな転換期を迎えております。

この様な時だからこそ、これからの本市の目指す姿（将来像）を市民の皆様に分かりやすく示す必要があります。

本市には、全国有数の生産を誇る農産物や、有明海の恵みを受けた海産物が豊富にあります。また、1300 余年の歴史ある玉名温泉と夏目漱石の名作「草枕」の舞台として知られる小天温泉があり、豊かな自然と歴史的、文化的資源に恵まれた地域です。また、県北の玄関口として新幹線新玉名駅や主要幹線道路も整備され、地理的にも多くの可能性を秘めた地域でもあると思っております。そして、2019 年 NHK 大河ドラマ「いだてん」では、本市の名誉市民であります金栗四三氏が主人公の一人として決定しており、本市を全国に P R する千載一遇のチャンスを迎えております。

私たちは、この大きな転換期に、この資源やチャンスを生かし、可能性を最大限に引き出すことで、市内外で玉名の魅力を実感できるまちづくりを進めて行かなければなりません。そこで、私は、本市の目指す姿（将来像）を明確にして、すべての市民と共にその将来像の実現に向けて進んで行くために、この「笑顔をつくる 10 年ビジョン」を策定いたしました。

この 10 年ビジョンは、「こんな玉名市であって欲しい」と願う多くの市民の皆様の見方や希望をもとに、10 年後の玉名市の将来像（めざす姿）をまとめたものです。私は、その将来像を行政、議会、すべての市民の皆様と共有し、“チーム玉名”としてその実現を目指し、最終目標である“市民の笑顔が人を呼び込むまち”の実現に向けて取り組んでまいりますので、市民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成 30 年 12 月

玉名市長

藏原隆浩



基本目標



“市民の笑顔が人を呼び込むまち”

すべての市民が笑顔で暮らせるまちが一番。市民の笑顔をつくり、市民の笑顔を守ることを第一に考え、長期的視点で施策を推進します。そして、その笑顔が魅力となり、多くの人が集い、訪れ、住みたくなるまちづくりに繋がります。



取組の方向性

合併前の1市3町の時代から、それぞれの地域には伝統文化と魅力があり、地域性を生かした取組が行われておりました。これまでの地域性や特色を生かした取組を大切に、それぞれの地域が輝き続けるように、また、それぞれの地域で笑顔が絶えないように、“**地域の特色を生かしたまちづくり**”を推進することを基本とします。

玉名地域の特色

● 歴史と文教のまち

- ・ 菊池川が流れる玉名平野では米作り、商業、温泉など古くから営まれ、また、大学、高校が集中する県北の文教都市を形成しています。

岱明地域の特色

● 産業とスポーツのまち

- ・ 有明海の恵みを受けた水産業が盛んな地域であり、また、有名選手を輩出するなどスポーツも盛んに行われている地域です。

横島地域の特色

● 産業と福祉のまち

- ・ 広大な干拓地では全国屈指の施設園芸が営まれており、地域の中心部はコンパクトシティを形成した住みやすい福祉のまちです。

天水地域の特色

● 産業と文化のまち

- ・ 中山間地を利用した果樹栽培が盛んな地域で、また、夏目漱石のゆかりの地でもあるように文化振興の進んだ地域です。

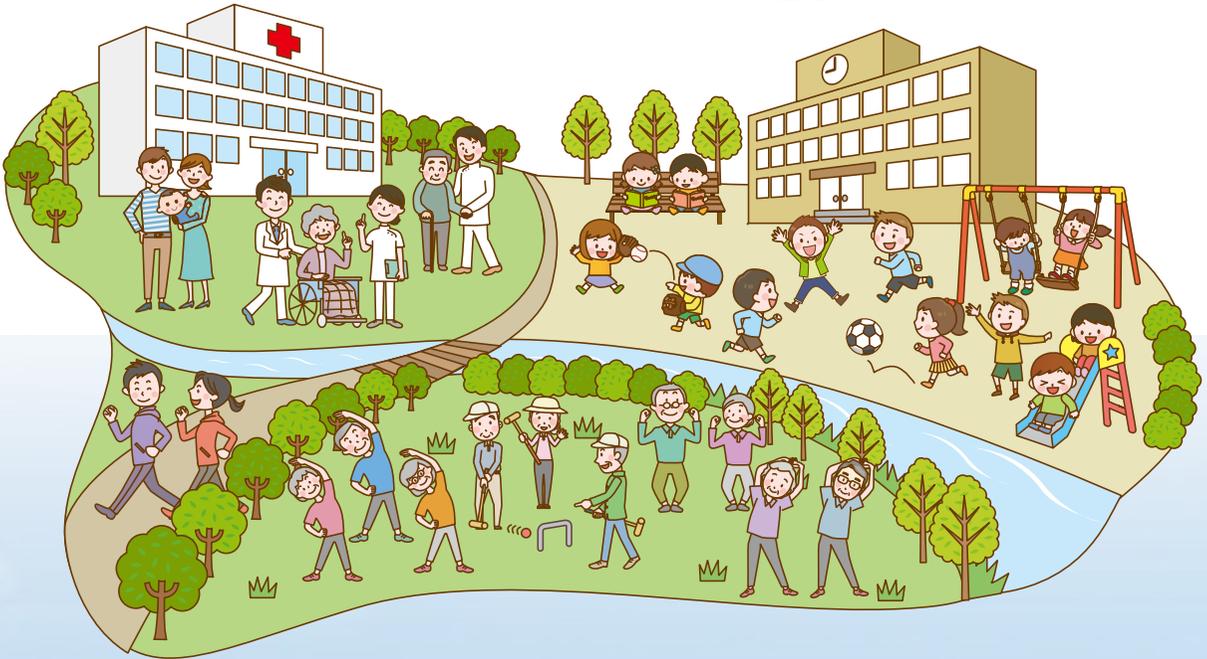


取組 1

市民生活の安定

めざす姿

子どもたちは楽しそうに遊び、学ぶ。保護者は子どもたちの笑顔を見ながら、安心して子育てができる。そして高齢者は、住み慣れた地域で生きがいをもって暮らせる。そんな日常の中で、子どもから高齢者までのすべての市民が、こんな玉名での生活に魅力を感じ、充実感と安心感の中で笑顔で暮らせるように、多様なニーズに対応した様々な市民サービスの提供と生活環境の整備を図り、住みよいまち、住みたいまちの実現を目指します。



取組概要

プロジェクト

安心子育て環境づくり

働くパパ・ママを応援

- 学童保育を拡充
- 延長保育や一時預かり保育などを充実
- 待機児童解消へ向けた取組の推進 など



経済面で子育てを支援

- 子ども医療費の現物給付を開始
- 保育料の軽減を検討
- 不妊治療費の一部助成や出産祝い金制度の検討 など



安全・快適に楽しい学校生活を

- 通学路の危険箇所を解消
- 小中学校のトイレ洋式化を推進
- 小中学校の特別教室への空調の導入を検討 など



未来を生き抜く力を育成

- 小中一貫教育により切れ目のない教育を実施
- ICTを使って情報活用能力を育成
- 県内唯一の「小学校全学年35人学級」を実施 など



プロジェクト

みんなの生活を守る福祉のまちづくり



元気な暮らしをいつまでも

- 介護予防活動の場を市内全域へ拡充
- 認知症の人も安心して暮らせる体制を構築
- 高齢者の就業支援や地域活動などへの積極的な参加を促進 など



住み慣れた地域でいつまでも

- 乗合タクシーなど高齢者の移動手段を確保
- 食料品等の移動販売などを検討
- 高齢患者のための在宅医療体制の構築 など



みんなが自分らしい生活を

- 障がいのある子どもの成長をサポート
- 障がいのある人の自立を支援
- 人権教育と啓発活動の推進 など



自分に合ったサービスを

- 様々な福祉サービスなどの情報を早くて正確に提供できるように情報発信を強化
- 関係機関と連携して相談体制を整備 など



プロジェクト

みんな安心健康づくり

日頃からの健康管理を

- 健康づくりや食育を推進
- 若年層の検診受診による保健指導で生活習慣病予防
- 疾病予防のために各種予防接種の啓発 など



早期治療で重症化を防ぐ

- がん検診や特定検診などで早期発見・早期治療へ
- 重症化防止へ受診勧奨と特定保健指導を徹底 など



「いざ」となっても安心

- 新病院を中心とした地域医療体制の確立
(救急救命体制の充実や小児医療の確保、地域医療機関と連携した地域完結型の医療体制の構築を目指します。) など



楽しみながら健康づくり

- 公民館講座や高齢者教室をさらに充実
- マラソン大会など楽しみながら健康づくりをできる機会を整備 など



取組 2

まちづくり の充実

めざす姿

雄大な自然の中で、大地と海の恵みを受けて安心・安全の農水産業を営む。長い歴史の中で築かれた商業のまちは、買い物客や観光客など多くの人で賑わう。市民は、そんな郷土に誇りを持ち、仕事にやりがいを感じ、夢と希望を抱いて働き、そして余暇には、地域の魅力を感じながら家族や仲間と笑顔を楽しむ。そんな地域社会を目指します。



取組概要

プロジェクト

魅力ある産業づくり

「強い！」農水産業を確立

- 農地の集積など経営基盤を強化
- 収益性の高い農業経営の確立を支援
- 新規就農者など多様な担い手の確保、育成など



「賑わう！」商工業のまち玉名へ

- 地域でお金が還流する仕組みを構築
- 空き店舗の活用や創業の支援で中心市街地を活性化
- 中小企業や地場企業、商工団体を支援 など



「新たな力」で活力を創出

- 企業誘致の推進で雇用を創出
- 官民連携による工業団地の整備
- 企業ガイダンスなどで次世代の担い手を確保など



「うまい！」玉名産を全国へ

- トップセールスやSNSで玉名産を広く強く発信
- 玉名ブランドの競争力を強化
- 高付加価値をつけた商品の開発や販売の促進など



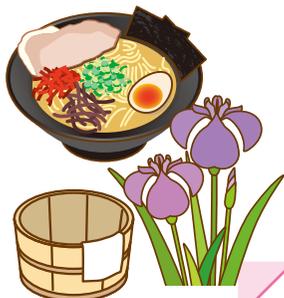


プロジェクト

オンリー玉名!のまちづくり

豊富な素材を生かした観光振興

- 偉人ゆかりの地として観光PRを強化
- 玉名温泉や玉名ラーメンなどを生かしてリピーターを確保
- 高瀬裏川花しょうぶ祭りなどイベントへの誘客を促進 など



恵まれた地理的条件でまちづくり

- 観光や商業、道の駅的交流施設やレジャー施設の誘致を推進
- JR新玉名駅を活用した観光施設などの誘致・集積や定住を促進 など



新たな可能性で賑わい創出

- 外国人観光客を呼び込むインバウンド事業を推進
- グリーンツーリズムなど自然や農業の体験型観光商品の開発を検討 など



音楽の都、スポーツの里へ

- 関係団体と連携して音楽の都づくりを推進
- スポーツ振興の環境を整備
- 自然や特色を生かしてスポーツツーリズムを推進 など



プロジェクト

機能的な都市基盤づくり

大きな可能性を秘めた新玉名駅周辺の開発

- 県北の玄関口としてふさわしいまちづくりを進めます。



市民生活の拠点を整備

- 岱明町公民館の建替えの推進、岱明ふれあい健康センターの有効活用の検討
- 市民が集う市民会館の建設
- 地域医療の拠点として新病院を整備 など



安全で住みよい環境づくり

- 危険空き家の解消や空き家の有効活用
- 安全確保のために徹底した生活道路の維持管理
- 利便性の高い交通網の構築 など



災害に強い都市へ

- 実効性のある地域防災計画の策定
- 防災無線の整備や河川改修など災害対策を強化
- 消防団や自主防災組織など地域防災を担う団体を支援 など



取組 3

行政運営 の進化



めざす姿

市役所は、健全な財政運営のもと関係機関、近隣市町などと連携し、夢と希望に満ちた施策を推進する。職員は、市民との対話を大切に、広い視野と専門的な知識で市民のニーズに応える。そんな市役所に信頼と親近感を抱き、市民の顔が安心感に満ちる。そして市役所と市民が手を取り合い、笑顔あふれるまちをともに創っていく。そのような行政運営を目指します。



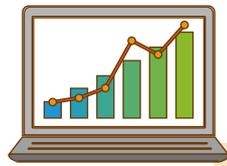
取組概要

プロジェクト

市民のための行財政運営

未来を見据えた行財政運営

- 長期見通しによる計画的な財政運営
- 積極的な民間活力の導入
- 入札制度改革で地元業者優先を徹底 など



市民の期待に応える市役所へ

- 職員の笑顔あふれる接遇と意識改革
- 市民のニーズに応える専門性を習得
- 適材適所の人事配置 など



公共施設などの適正管理と有効活用

- 総合管理計画に基づく統廃合や長寿命化を推進
- 公共施設の多目的化や複合化で機能性をUP!
- 財源確保に向けた資産の売却や貸付を検討 など



正確な情報をタイムリーに発信

- わかりやすい広報たまなを発刊
- SNSを活用して、新鮮な情報をいち早く発信
- 適正な情報公開で開かれた市役所へ など



プロジェクト

地域内連携の強化

高校・大学の特性・専門性を行政運営に反映

- 市内5つの高校との連携を強化
- 九州看護福祉大学や包括協定大学との連携強化
- 地域との交流で若者の地域定着を促進 など



官民の共創・協働によるまちづくり

- 地域住民や様々な団体と連携してまちづくりを推進
- 企業や各種団体との連携を通して、新たな視点に立って施策を推進 など



プロジェクト

広域連携の強化

市域を超えた取組の推進

- 近隣市町と連携した行政サービスの提供
- 日本遺産や金栗四三のPRなど県北地域で連携した観光の推進 など



様々な自治体と繋がる

- 全国の自治体との連携を強化
(歴史的・文化的なかかわりをきっかけにして、イベントの共同開催など交流を重ねて連携を深めます。) など

